



2007年 8月12日掲載

三浦海水浴紀行 / 水遊び編

今回は、家族3人水入らずの海水浴の模様をお送りしよう。我が息子が生まれてから、まだ1度も家族3人で海水浴に行ったことがなかったのだ。

今回は、東京からも近い三浦半島に決定！三浦半島は、三浦海岸のような超メジャー級の海水浴場から、浜辺が100mにも満たないこぢんまりとしたところや、海の家がない海水浴場まで、バラエティに富んでいる。

その中でも、相模湾に面した和田長浜（わだなはま）海水浴場に行くことにした。ここは横須賀市と三浦市の市境に位置し、横須賀市側が「長浜」、三浦市側が「和田」という海水浴場になる。

自宅出発は6:30、金曜日だけあって環八は大渋滞。裏道を駆使し、7:30には第三京浜に乗る。

その後、横浜新道では事故渋滞にはまり、新保土ヶ谷ICから横浜横須賀道路、通称「横横」に。ここからは下りになるので、至って順調である。

当初の予定では、8:00には海岸に着いているはずが、未だ横横。それでも、横須賀PAでの朝ご飯調達は怠らない。

横横は衣笠ICで降り、三浦縦貫道路を經由し国道134号線へ。ここから10分ほどで和田長浜海水浴場である。

8:40、海岸の駐車場に到着。空きがあるかどうか心配したが、十分余裕があった。

実は、ここの駐車場は無料なのである。そのため、なるべく早く到着して駐車場を確保しておく必要があったのだが、杞憂で済んだ。

早速、駐車場の目の前にある海の家に入る。今回利用した海の家は、意外とこぎれいなのだ。

普通、海の家といえば掘っ立て小屋みたいな構造だが、ここはコンテナハウスを連結させているのである。しかも、コンテナハウスがゆえに、冷房完備の休憩室があったり、屋上にはデッキも備わっているのだ。

着替えを済ませ、浮き輪に空気を入れ、家族3人で海に入る。この日は午前中から気温がぐ

んぐん上昇しているせいか、海水の冷たさが心地よい。

波は穏やかだが、海草が漂っているのだ。場所によっては、迫り来る海草をかき分け、あるいはよけながらの海水浴となる。

1時間ほどで休憩。海の家では、利用者なら無料で貸し出される浮き輪を見つけた。

しかも、股で体を支える子供用のも発見。空気を入れてもらい、2回目の入水を試みる。

我が息子も、浮き輪に乗って楽しそうである。先ほどよりも波が出てきたが、波に乗るたびに「ホー」と声を上げ喜んでいるのだ。

11:00を過ぎ、そろそろ腹も減ってきた。少し早いけど、海の家で昼食である。

嫁さんはラーメンを、私はジャンバラヤを、息子はフライドポテトを、大人2人はさらにサザエの壺焼きをオーダー。ほどなく料理が到着した。

我が息子、実はサザエが大好物。しかも、身ではなくわたが好きなのだ。

苦くて嫌いな大人も多いサザエのわただが、我が息子は平気で食べてしまう。貝の奥の方にあるクルンとした部分が、グルグルしたものが大好きな我が息子の琴線に触れたのだろうか？

満腹となったので、3回目の入水。ここから先は、[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2007年 8月19日掲載

三浦海水浴紀行 / 買い物編

今月は、三浦半島での海水浴の様様をお送りしているが、今回はその後編。前編は[こちら](#)からどうぞ。

腹も満たし、3回目の入水。さらに波が出てきて、潮も満ちてきた。

食後だけあって、波間に漂う我が息子も眠くなってきたようだ。浮き輪の上で船をこいでいるのである。

そろそろお昼寝の時間と察し、岸に引き上げようとしたその瞬間、事件は起こった。何と、我が息子が押し寄せた波にのまれたのだ！

急いで息子を抱き上げた。息子は、恐怖で泣いていたのは言うまでもない。

それで目がさえてしまったのかどうかは定かではないが、海の家ではお昼寝をしなかった。お昼寝をあきらめ、最後の入水へ。

さすがに先ほどの体験があったからか、我が息子は海に入りたがらない。それをなだめすかして、本日最後の海水浴を楽しむ。

14:00となり、撤収。シャワーを浴び、着替えて、海の家備え付けの洗濯機で水着を脱水し、引き上げる。

14:30、和田長浜（わだなはま）海水浴場をあとにする。目指すは、「マグロの街」三崎だ。

途中、コンビニでアイスを購入。海に入ったとはいえ、暑くて体が欲するのである。

15分ほどで三崎に到着。三崎港にある三崎フィッシャリーナ・ウーフ「うらり」で買い物をすることにした。

「うらり」は、産直コーナーのほかイベントスペースなどもあり、「海の駅」にも指定されている。ヨットやクルーザーも立ち寄れるよう係留設備もあり、東京や静岡方面の船も見られた。

ここでは、名物「トロまん」を購入。肉まんの肉の代わりに、マグロが使われているのだ。

食してみると、マグロの脂がのっているせいか、マグロの感じがしない。肉と言われれば肉と思ってしまうのだ。

次に、「本命」マグロを物色。切り落としと剥

き身のセットで1000円というので、思わず購入した。

さらに場内を回ると、ワカメの試食に遭遇。早速試してみると、これがうまい。

試食のせいもあってか、ワカメも購入。さらに、干物やマグロの酒盗も買ってみた。

気づけば、時刻は16:00。三崎を出発し、毘沙門を通る。

ここは風力発電の風車があり、我が息子は大喜び。グルグルするものが大好きなのだ。

三浦海岸から佐原ICへ抜け、横浜横須賀道路、首都高速湾岸線、第三京浜経由で帰宅した。

帰宅後、我が息子に聞いてみた。

親「海好き？」

子「嫌い」

親「何で？」

子「ブクブクしたから」

おぼれかけたことがトラウマにならなければいいけど。

[\[トップページ\]](#)



非掲載

三浦海水浴紀行 / 番外編

「つれづれWEB」本編では以上であるが、実は後日、ほぼ同行程で再び同じ場所に行ってきた。「つれづれ掲示板」にも少し書いたが、PDFだけの番外編としてお送りしよう。

行程は前回とほぼ同じ。ただ、やはり三崎に来た以上はうまいマグロが食べたい。

そこでネットでいろいろ調べたところ、よさげな店を発見。丼の小鉢2品を組み合わせて、何と1050円とリーズナブルなのだ。

マグロ丼はもちろん、かき揚げ丼など数種類の小鉢丼から選べ、しかもみそ汁もついてくる。これは行くしかない！

でも、夕飯までには時間がある。そのため、三浦半島の最先端にある城ヶ島へ向かうことにした。

城ヶ島へは、有料道路である城ヶ島大橋を渡る。観光道路の側面もあるが、城ヶ島の島民にとっては生活道路でもあるのだ。

城ヶ島へ入り、バス停脇の駐車場にグレカリブを止める。さすがに平日の夕方ということもあり、観光客もまばらである。

観光客もまばらなら、駐車場周辺の土産物店の開店もまばら。夏の観光シーズンであっても、ちょっと寂しさを覚える。

駐車場から灯台まで、細い路地を抜ける。両側には土産物屋が並んではいるが、観光客の少なさから開店休業状態である。

灯台に着き、家族で記念撮影。夕方なのでかなり逆行ではあるが、まあそれなりの写真が撮れた。

灯台から駐車場へ戻る。途中、猫を発見した。

すぐそばには猫じゃらしが生えており、我が息子は猫じゃらしを引っこ抜く。しかも、意外と手慣れてすぐ抜けたのだ。

三崎のうまいマグロを食ってるであろう猫に、我が息子が猫じゃらしで相手をするが、猫は無視。いくら猫じゃらしをちらつかせても、我関せずで無反応なのだ。

そんなかわいげのない猫に別れを告げ、城ヶ

島をあとに。いよいよ、うまいマグロを食うのだ。

城ヶ島大橋を再び渡り、三崎の市街へ。店は三崎銀座の出口にある。

この店は、何と明治時代から続く寿司屋。地元の人も食べに来る老舗なのだ。

我々は、もちろん小鉢丼セットを注文。するとほどなくセットがやってきた。

当然ながら、マグロ丼との組み合わせ。やはり、マグロがうまい！

一方、隣の席ではおじさん5～6人での宴席。何と、そこにはマグロの兜焼が現れたのだ。

これには、店内中騒然。巨大なマグロの頭が、宴席に運ばれた。

すると、宴席のおじさんから我が子にと兜焼のお裾分け。魚貝の好きな我が息子は、あっという間に平らげたのである。

うまいマグロを満喫し、三崎をあとにする。国道134号線、三浦縦貫道、横横道路を乗り継いで、自宅に到着した。

[\[トップページ\]](#)